

博報「世界こども日本語グローバルネット推進」助成事業 2008年度 海外児童日本体験プログラム

海外招へい校・日本受け入れ校 決定

財団法人 博報児童教育振興会（理事長 近藤道生）は、博報「世界こども日本語グローバルネット推進」助成事業（※別紙2参照）の2つ目のプログラムであります「海外児童日本体験プログラム（日本と海外の児童・生徒との異文化交流助成）」の、海外招へい校と、日本国内受け入れ校が決定いたしました。

- ・ 海外招へい校は、厳正な選考の結果、2007年7月に実施いたしました「海外教師日本研修プログラム」に参加した17校から、6ヶ国7校を選出いたしました。（別紙1）
- ・ 日本受け入れ校は公募の結果、2校に決定いたしました。（別紙1）
- ・ 本プログラムは2008年5月11日～5月19日に、独立行政法人 国際交流基金と社団法人 国際日本語普及協会の協力のもと実施されます。

◆ 実施スケジュール

- 2008年5月11日～5月19日

◆ 来日後の体験概要

- 日本の伝統文化・生活を知る各種体験プログラム
- 日本の中学校訪問、生徒との交流プログラム
- ジャンボリー（キャンプファイヤー）
- ホームステイ ほか

<2008年度 海外児童日本体験プログラム 概要>

- ・ 2007年3月から開始いたしました「世界こども日本語グローバルネット推進」助成事業は、大きく3つのプログラムで構成されております。「海外児童日本研修プログラム」は、2007年7月に実施した「海外教師日本研修プログラム」に続く、当事業2つ目のプログラムです。
- ・ 本プログラムは、海外で日本語を学ぶ中等教育機関の外国人生徒を日本へ招待し、日本の生徒との日本語による交流プログラムを通して、国内外の生徒が、日本語や相互の文化への理解と関心を深めることを目的としております。
- ・ また、本プログラムで構築された国内外校のネットワークは、日本生徒が海外校を訪問し日本語で交流する、本事業3つ目のプログラム「日本児童海外体験プログラム」へとつながっていきます。（※ 別紙2事業構造図参照）

<この件に関するお問合せ>

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-22

財団法人 博報児童教育振興会

博報「世界こども日本語グローバルネット推進」助成担当

TEL 03(3233)6788

FAX 03(3233)6325

Eメール hakuho.foundation@hakuhodo.co.jp

ホームページ <http://www.hakuhodo.co.jp/foundation/>

(別紙1) 2008年 海外児童日本体験プログラム 招へい校一覧

招へい校	国名	引率者
BLUEBELLS SCHOOL INTERNATIONAL	インド (ニューデリー)	ジャスプリート アフジャ
Sant Yoseph Junior High School	インドネシア (デンパサール)	シルヴィア ダマヤンティ
NAWAMINTHRACHINUTHIT TRIAMUDOMSUKSANOMKLAO SCHOOL	タイ (バンコク)	ウイナイ ロイチャローン
SEKOLAH MENENGAH SAINS TUANKU SYED PUTRA	マレーシア (カンガール)	ウィ・グアン・リー
Pingtung Country Private Meiho Senior High School	台湾 (屏東)	張淑怡
Le Qui Don Secondary School	ベトナム (ホーチミン)	グエン・ミン・タム
Vo Truong Toan Secondary School		グエン・ホアン・フォン・ニー

2008年 日本国内受け入れ校 一覧

受け入れ校	学校訪問受入日
私立 啓明学園 中学校	2008年5月14日
港区立 御成門中学校	2008年5月15日

(別紙2) 博報「世界こども日本語グローバルネット推進」助成事業について

博報児童教育振興会は1970年児童教育を振興する目的で文部省(当時)認可の財団法人として設立されました。以来、児童・生徒の教育において優れた実績を上げられた個人・団体を顕彰する「博報賞」をはじめ、時代の変遷に併せて多角的な支援を行うべく、事業を拡充・発展させて参りました。

そして2007年3月、国際化が進む昨今において、日本の児童が日本のことばと文化的確かな理解に根ざし、さらに健全な国際人へ成長することを支援するため、日本の児童・生徒の異文化体験、日本語を学ぶ海外の児童・生徒の日本体験を核とした、博報「世界こども日本語グローバルネット推進」助成事業を開始いたしました。

◆ 事業目的

- ・ 国内外の児童・生徒が、日本語による国際交流を行うことを通じて、日本のことばと文化を理解・再認識し、健全な国際人として成長することに寄与する。
- ・ 海外の学校教育における日本語授業の活性化や授業環境の向上を図り、日本のことばと文化への理解・関心を促進する。
- ・ 中長期にわたって事業を継続・展開することで、日本語教育のグローバルネットワークを構築する。

◆ 事業構造

本事業は、日本児童・生徒と海外で日本語を学ぶ児童・生徒との交流と、海外の日本語授業環境整備のための助成活動を、3つのプログラムで構成し、これを一定のサイクルで実施する構造となっています。

(A) 海外教師日本研修プログラム (海外日本語授業環境整備助成)

海外の初・中等教育機関(日本の小・中学校に相当)の日本語教師(日本人を除く)を日本に招へいし、研修会の実施など授業環境整備に向けた支援を行う。

(B) 海外児童日本体験プログラム (日本と海外の児童・生徒との異文化交流助成)

海外の初・中等教育機関(日本の小・中学校に相当)で日本語を学ぶ児童・生徒を日本に招へいし、日本の先端技術や伝統芸能などの文化・社会体験と、学校訪問などの交流を通じた日本語・日本文化への理解と関心の向上を図ってもらう。

(C) 日本児童海外体験プログラム (日本児童・生徒の海外異文化体験助成)

日本の児童・生徒の海外訪問を支援することで、同世代の海外の児童・生徒との日本語を通じた交流と、異文化体験による日本語・日本文化の再認識、および国際人としての自覚醸成を促進する。

この事業は、以上の3つのプログラムで構成されますが、これで完結するだけでなく、その後も様々な相談に対する助言や情報提供をWebを通じて展開し、日本語のグローバルネットワークの形成を推進していきます。

<事業構造図>

